八碁連だより

３月号　　第３３１号

発行日　平成３１年３月１日（金）
発行所　八王子囲碁連盟
住　所　八王子市大楽寺４５６－１９
電　話　042-624-5249
発行者　吉澤　實
編集者　木河　専

春を待つおひな様（石川市民センター展示）

八王子囲碁連盟の目的

八碁連は市民が、伝統文化である囲碁を通じて親睦を図り、健康が維持できるような機会を提供し棋力の向上を目指すとともに、囲碁の啓蒙と普及に努めることを目的とする。

長房囲碁同好会　高橋俊之

「東浅川」保健福祉センター・・・わが「八碁連」の“聖地”とも言える。

しかし、十数年前退職して碁を始める前の私には、「東浅川」と言えば「駅」しか浮かばなかった。

東浅川駅（高尾駅はＳ36 年まで浅川駅。その東の駅）・・・65 歳以上の近辺で育った方ならご存知だろうが、高尾を出た東京行きが数百メートル進んだ所、いちょう祭りのときにたくさんのテントが並ぶ位置、そこにホームと平屋の駅舎があったのだ。一般市民は乗り降りできない皇族のみが利用する駅だった。

S26 年貞明皇后の葬儀があり、多摩御陵の参道脇は人垣が出来た。6 年生だった私もその中の１人だった。近隣の小学校から最上級生全員なのか、代表何人かだったのかは覚えていないが、並ぶことになったのだろう。

記憶では、私は南浅川橋から北側数十メートルの東側に立っていた。東浅川駅から降りる皇族たちの場面は見えなかったが、お召し列車を利用してきたのだ。まだオリンピック前、日本の道路のひどさは有名だった。クルマで皇居から八王子まで来る時代ではなかったのだ。

並木町に住む私は、中央線沿いの南側の道を通って「センター」に行く。100mほど手前の跨線橋のところで時々昔のホームと駅舎が目に浮かび「いつまであったのだろう？」「高校生の頃？20 代後半にはなかったと想うが？」・・・などとモヤモヤしていた。

今回インターネットで調べてみた。撤去されたのは S37 年。貞明皇后の葬儀の後も S30 年代半ばまではまだ皇族は列車で来ていたようだ。浅川事務所にも聞いてみた・・・浅川町が八王子市になったのが S34 年、その翌年の 11 月、広い地域の「上椚田」の一部が「東浅川町」となる。今、大型店舗もでき賑わい「センター」や「東淺川駅」のあった一帯は、それまでは「東浅川」とは言わなかったのだ。

◆第 20 回棋聖大賞囲碁大会結果◆

恒例の棋聖大賞囲碁大会が１／２０（日）開催され、招待者等含め３５名の方が参加されました。
結果は以下の通りです。

参加者（３５名）	優勝	準優勝	３位
A組（六段以上）20 名	小川浄二 八段／南大沢	中邑　豊 七段／恩方	鈴木浩治 六段／大和田
B組（五段以下）15 名	成田　滋 三段／大和田	鈴木八十八 三段／北野	庄司則幸 五段／元八王子

（棋聖大賞囲碁大会風景）

（表彰の様子）

◆第 26 回八碁連タイトル囲碁大会結果◆

タイトル囲碁大会が２／３(日)に開催され、各地区同好会のタイトル選手５４名が参加されました。
結果は以下の通りです。

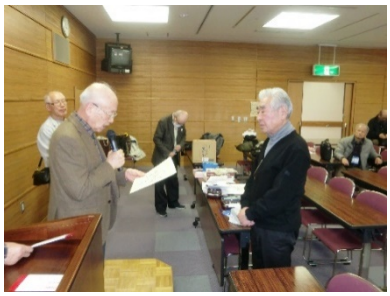
	優勝	準優勝	３位
名人戦（１８名）	斎藤重夫(台町)/六段→六段Ａ	佐藤義廣(北野)/六段	藤森 力(恩方)/七段
王座戦（１６名）	平松隆治(石川)/五段→五段Ａ	松本健彦(石川)/六段Ａ	横手幸彦(恩方)/三段
天狗戦（２０名）	辻 日出男(川口)/四段→四段Ａ	白川博克(長房)/五段	小西弥一(浅川)/三段

［タイトル囲碁大会風景］　　［表彰の様子］

［表彰の様子］　　［表彰の様子］

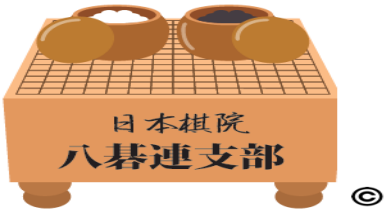
日本棋院八碁連支部コーナー

常任幹事　　南　正一郎



◆エンブレム決まる！◆

この度、**日本棋院八碁連支部のエンブレム**を作りました。デザインして下さったのは、岡山県真庭市にお住まいの三原義男さんという方で、次期支部長の成田さんのご友人です。蒜山高原にて農業を営むかたわら、ネットワーク関連の事業を展開しておられるとのことです。八碁連エンブレムの公募で佳作になった作品も寄せられました。



日本棋院八碁連支部エンブレ

今回採用したエンブレムは、八碁連支部のアイデンティティを示すのに相応しいシンボルだと思います。

日本棋院八碁連支部コーナー　続き

◆第 9 回指導碁の報告　　熱のこもった指導でした！◆

日本棋院の熊丰七段による指導碁を 2 月 3 日のタイトル囲碁大会に併せて開催しました。傍らで棋譜を取りながら拝見していて、従来にも増して丁寧で、熱の入った指導だったように思います。今回初参加の方々より感想文を寄せてもらいましたので次に紹介します。ありがとうございました。

菅井勝男さん(恩方)より

前以て、恩方の講習会で藤森七段より置き碁を教えていただき、参加しました。そのお陰と思いますが、順調に指すことができたと思っています。熊先生からも褒められ感激しました。後の昼食会で一緒に指導碁を受けた皆さんと熊先生を囲み、団らんしましたが、皆さんもその指導方法に感動している様子が伺えました。
連合艦隊司令長官の山本五十六の言葉で「人は褒めてやらねば」を思い出しました。これからも頑張ります。ありがとうございました。

細川俊子さん(恩方)より

始めドキドキしましたが、初心者にもすごく良く分かるように教えてくれて感激しました。私は早打ちですが、考えて打つように仕向けて下さった気がします。最近少し碁をさぼっていたのですが、勉強して、是非、もう一度受けたいと思います。

仲渡英生さん(石川)より

級位者の組で指導碁を受けました。実戦を通して、「3 目でも頭はハネよ、石は繋がるように、勝とうという気持ちをもって、」を教わりました。噂にたがわぬ教え上手で、2 目ぐらい強くなった気がします(気のせいか?)。先生のファンになりました。また機会があれば指導碁に参加したいと思います。
昼食を取りながら、いろいろ楽しい座談など、とにかく楽しい指導碁でした。ありがとうございました。

浅川武二三さん(恩方)より

指導碁を受けて感じたことは、囲碁を通して多くの仲間と楽しいひと時を過ごせたということです。更に技術を向上させ、また挑戦したいと思います。

以下の方が指導を受けられました。(敬称略)

菅井　勝男　(恩方)	浅川武二三　(恩方)	小嶋　英基　(長房)
市川　信治　(恩方)	小町谷常孝　(浅川)	望月　毅士　(中野)
細川　俊子　(恩方)	高橋　靖夫　(恩方)	池本　伸吾　(南大沢)
仲渡　英生　(石川)	徳満　英世　(恩方)	竹内　朝晴　(恩方)

［指導碁様子　その１］

［指導碁様子　その２］

投稿　　**奥多摩湖と「棄民」**　　**大和田囲碁同好会　成田　滋**

奥多摩三山の一つ、標高1,405ｍの御前山に登ったことがあります。途中、奥多摩湖を眼下に眺めながら登るのですが、結構きつい山です。奥多摩湖は北海道での学生時代の思い出となるところです。それは小河内ダムの建設にまつわる小説、「日蔭の村」を読んだことがあるからです。作者は石川達三です。真っ青な湖を見ながら、小説の舞台となったのがこの湖の底であることを思いました。

東京市へ水道供給のため貯水池建設するという計画が昭和６年に持ち上がります。村民は、立ち退きの補償費をあてにし、湖底に沈むというので村民は農作業もやらなくなります。補償交渉は難航し代替地での新しい生活も不透明なままです。小作や自作の零細農家は娘を売りとばさねばならないような、まるで江戸時代の貧農村のような姿です。開発業者に足元を見すかされ、村民にはきわめて低い補償金しか与えられなかったようです。中には遠くは満州開拓団、あるいは八が岳山麓の開拓団として離散していく者もでます。ダム建設工事は昭和18年に戦争で中断し、昭和23年に工事が再開され昭和32年にようやく完成したのが小河内ダムです。湖底に沈んだのは945戸の家々や神社、学校などです。

日本の地方の歴史でこのような事例は多くあります。国の方針に従わざるを得なかった庶民の苦悩と対立です。小河内ダムの建設と同じく、各地におけるダム建設をめぐる経過は、非常に似通っています。住民が政治に翻弄されてきた群馬県の八ッ場ダム計画もそうです。昭和27年計画は発表されると、水没地に住む住民が犠牲になることには断固反対し、町全体を巻き込んだ長期にわたる運動が展開されました。そして、実に68年が経つ来年に完成することになっています。川原湯温泉街を始め340世帯が完全に水没していきます。

石川達三が「日蔭の村」を発表したのは昭和23年ですが、この小説には下敷きとなった作品があります。昭和14年に石川は自分のブラジル移民体験を描いた「蒼氓」を発表しています。「氓」とは流浪する民とか棄てられた民という意味です。国の移民政策で外国に移住する人々の悲しい現実を石川達三は描こうとします。国内の食料難から国から奨励され、昭和11年から始まった満蒙開拓団もそうです。満州の開拓にかり出され置き去りにされた人々が「棄民」です。

先日、「樺太地上戦終戦後７日間の悲劇」という番組が再放送されました。多くの民間人が犠牲になったなかで、辛くも脱出して助かった我が家のことを振り返りながら見ました。「棄民」は人ごとではありません。

●ワードの面白い使い方の講習会（再掲）

囲碁の催し物チラシや各種資料作成で役立Word講習会を企画しました。

・日時：　３月14日木曜日　午前９時30分～12時

・会場：　東浅川保健福祉センター　４Ｆ　第２研修室（場所が変更となりました）

・費用：　無料（どなたでも参加できます）

※参加者はPCを持参すると資料作成の実習が行えます。

またUSBメモリーの持参もおすすめします。

※教材として各自同好会の紹介文（400程度）と写真数枚をPCに入れて

参加ください。これを使ってチラシなどの原稿作成を行います。

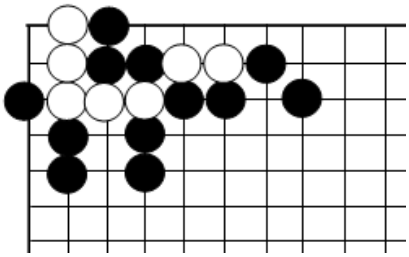
・申込先：　講習会幹事　成田　滋（大和田同好会）

メール　shigerunarita@gmail.com

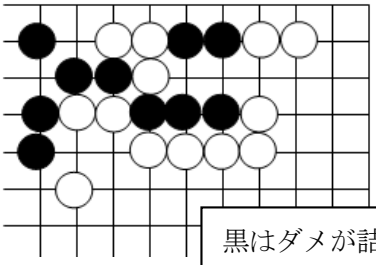
※なお、2/14(木)の「スイス方式講習会」には各同好会から10名ほどの参加を頂きました。
講師　武中様（南大沢）、参加者の皆様ありがとうございました。

【手筋・詰碁】

問題１　　黒先

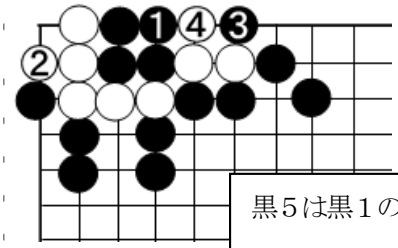


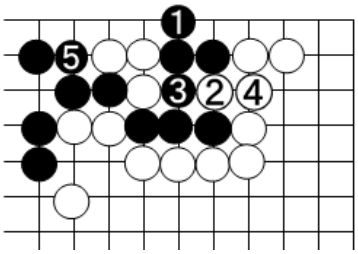
問題２　　黒先



黒はダメが詰まりやすい形

問題１の正解



黒５は黒１の下

問題２の正解